

2009 年度・研究旅行奨励制度 【グループ】

名 前	花田恭子, 内堀美沙	研究テーマ	カッパドキア ～洞窟壁画と世界遺産の現状・保全～
目的	国 名	地域・都市名	
	トルコ	カッパドキア、カマン・カレホユック	

研究旅行の目的

現在、世界的にも文化遺産の観光による破壊や破損などが環境問題同様、問題となっている。私たちはその点をより深く取り扱い、実際に知るべきと考え、このテーマを選択することにした。目的としては、文化の交錯地であるトルコで、イスラム教下でも発展し続けたカッパドキアの壁画美術の文化的背景を探ること。また、いたずら書きなどについての壁画の保存状態や、亀裂による洞窟の構造的な崩壊のような、世界遺産としてのカッパドキアの現状の把握。アナトリア考古学研究所を訪れ、観光地化したカッパドキアとまだ観光地化への手の加えられていないカマン・カレホユック遺跡との保全の問題について比較する。他に、カッパドキアやカマン・カレホユック遺跡へのトルコ政府の対応について調べる。

期待される成果

壁画を通してトルコ内でのキリスト教の変遷を知る。
カッパドキアとカマン・カレホユックの比較を通して遺跡の現状や保全問題、また文化観光の発展が環境や人々におよぼす影響について理解する。

研究旅行・日程表

	滞在地	行 動
第1日目		日本→イスタンブール
第2日目	カッパドキア	イスタンブール→カッパドキア (バス) ギョレメの野外博物館の岩窟教会群を巡る (バシル教会、エルマル教会、聖バルバラ教会、ユランル教会、カランルク教会、チャルクル教会、エル・ナザール教会、聖母マリア教会)
第3日目	カッパドキア	ユルギュップ (崩壊のすすむ岩窟住居)、ウフララの教会群 (スンブルル教会、アーチ・アルトゥ教会) を訪れる
第4日目	カッパドキア→カマン・カレホユック	カッパドキア→カマン・カレホユック (バスか鉄道)
第5日目	カマン・カレホユック	アナトリア考古学研究所を訪問し、所長さんにインタビュー (研

		究所の了承頂き済み)
第6日目	カマン・カレホユック	カマン・カレホユック遺跡の見学（カマン・カレホユックの現状・保全状態などについて）（発掘については現在交渉中）
第7日目	カマン・カレホユック	カマン・カレホユック考古学博物館、三笠庭園を訪問
第8日目	カマン・カレホユック →イスタンブール	カマン・カレホユック→イスタンブール（鉄道）→日本 →イスタンブール